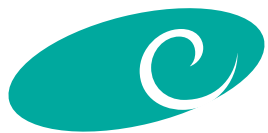


SDGs Action Book



NTTコムウェア



SDGsに賛同し、お客さまとともにサステナブルな未来を創造する

協創型イノベーションで、社会的課題の解決に挑戦する

近年、第5世代移動通信システム(5G)のサービス開始、AI(人工知能)・ビッグデータ、IoTなどの新たな技術が急速に進展しています。これにともない蓄積されたデータの分析・活用が進み、人びとの生活における利便性や各産業における生産性向上など、幅広い分野で新たな価値の創造・提供が可能となりました。そしてさまざまな事業者が、既存の業種・業態の枠組みを超えた連携によりICTの利活用を通じて、地方創生、少子高齢化などの社会的課題の解決に向けて、多様で革新的な新規サービスの創出に努めています。

一方、高度化・複雑化するサイバーセキュリティ上の脅威や激甚化する災害対策、新型コロナウイルス感染症対策など直面する重大な課題に対し、安心・安全な社会システムの運営、豊かな生活の実現に向けた情報通信の重要性と期待はますます高まっています。

NTTコムウェアグループは、いつでも・どこでも、24時間365日お客さまをつなぐ通信を提供し続けてきたNTTグループのIT部門として培ったICT技術とノウハウを活かし、お客さまとともにビジネスを創り出す協創型イノベーションで、新たな価値を創造し社会的課題の解決に挑戦しています。

事業活動を通じて、SDGsの達成に貢献する

NTTグループは2016年にサステナブルな社会の実現を共通目標とする国連SDGs(持続可能な開発目標)に賛同を表明しました。

私たちNTTコムウェアグループも2017年「NTTコムウェアグループCSR活動指針」を改定し、これまで取り組んできたCSRの4つのテーマと関連するSDGsを明確にしました。そして、テーマごとに設定する経営指標(KPI)「CSR定量指標」を見直し、これらの目標達成に向けた実践を通じて、SDGsの達成に取り組んでいます。



2019年度においては、企業に求められる「社会性」と「事業性」の両立(CSV)をより具現化すべく、NTTグループ中期経営戦略「Your Value Partner 2025」で推進しているB2B2Xプロジェクトへの参画や、「Managing Value for Smart World」を当社のブランドと設定し、柔軟で実践的な開発を行うアジャイル人材の育成といった事業活動に直結する指標・目標を設定し活動を強化しています。私たちのCSRの取り組みの詳細については、「NTT Comware Group Sustainability Report」にて公開しています。

今回初の発行となる「SDGs Action Book」では、私たちのSDGsに関する具体的な取り組み事例を、SDGsに対する貢献事例にフォーカスした形でご紹介しています。例えば、NTTコムウェアの「Deeptector®」は、深層学習を利用した画像認識AIで、人の「目」で判断していた点検・検査作業をAIに代替させることで社会的課題の解決をめざしています。検査員確保・育成に課題のある製造現場の検品作業や、危険な環境での作業回避が課題のインフラ構造物の点検作業などにおいて、画像認識AI「Deeptector®」の活用機会が広がっており、評価をいただいています。お客さまのビジネスと私たちのサービス・技術の「協創」によって創造する実践事例としてご覧いただければ幸いです。

自由な発想で“つなぐ”、サステナブルな未来を創る

2020年春より、「コムカジ(COMWARE CASUAL STYLE)」と称し、通年のカジュアルスタイルを取り入れました。これは身近にできる気候変動対策としてクールビス・ウォームビズを通年化しCO₂削減につなげるだけでなく、私たち自身が自由なスタイルで自由な発想をすることで、さまざまな変革を起こしていきたいという想いからはじめたものです。

私たちのコーポレートメッセージである「心をつなぐ、社会をつなぐ」はこれまでも、これからも重要であり続けるメッセージです。私たちは在宅勤務をはじめとするウィズコロナ、アフターコロナにおける働き方も自ら実践し、社会が求める課題を見つけ出し、変革を起こすことで、SDGsの先も見据えたサステナブルな未来の創造に挑戦します。

新型コロナウイルス(COVID-19)への対応について

対応の状況

NTTコムウェアでは、新型コロナウイルスの内外での感染拡大を受け、感染症対策本部を立ち上げ、経営陣の随時関与のもと、各種の対応策を講じてきました。具体的には、国内初の感染者が確認された1月下旬以降、注視すべき事業リスクとして監視を強化。社員の安全健康はもちろん、自社のBCPならびに通信をはじめ、電気、ガス、水道、医療、交通、金融、流通など、社会生活を支える事業者としての使命を果たすため、内外の動向を注視すると同時に、グループ全社を対象に時差出勤およびリモートワークの活用、設備衛生・健康管理の徹底、Web会議などのリモートツールの積極的活用など、適時に対応を講じ、感染の防止に努めてきました。

また社会全体が同ウイルスにより大きく経済・日常活動が制約される中、NTTグループは教育支援や地方自治体・企業・事業主への支援など、さまざまな支援施策を講じてきました。NTTコムウェアもその一環としてクラウド型勤務管理システム「follow®」の無償提供を6月より開始しています。NTTグループによる取り組みの状況は、右記サイトで開示しています。



新型コロナウイルス感染症の流行へのNTTグループの対応について

今後に向けて

5月末に全国で緊急事態宣言が解除されて以降の事業運営は、NTTグループ統一方針および各自治体の要請も踏まえつつ、開発・保守についてもこれまでの開発品質・生産性の維持を図っています。一方で今後の推移は依然として注視が必要であり、引き続き感染拡大防止と社員の安全確保を最優先に、政府・自治体の方針などにに基づき柔軟に対応を実施していきます。

NTTコムウェア株式会社
代表取締役社長

栗島 聡

NTTコムウェアのCSR

社会と価値を協創する経営

NTTコムウェアは、日本の通信インフラを支え、人びとの暮らしを変えていきたいという想いを胸に、お客さまに最適なソリューションを提供してきました。ビジネスインテグレーターとして私たちは品質と信頼性を追求し、お客さまとともに考え、動き、真のパートナーとして新たなビジネス価値を「協創」していきます。

NTTコムウェア・ビジョン(2017年改定)

NTTコムウェア・アイデンティティ

NTTコムウェアは品質と信頼性を追求し、
お客さまとのビジネス価値の協創を通じて、
豊かなコミュニケーション社会の実現に貢献します。

コーポレートメッセージ

心をつなぐ、社会をつなぐ

行動指針

お客さまの持続的な発展と新たなビジネスの価値創造のために、お客さまとともに考え、ともに行動します。

企業価値向上のために、プロフェッショナルを目指します・育てます。

多様性を尊重し、社会の発展と安定のために社会の一員としての役割を果たし、ルールを守ります。

最高のチームパフォーマンスのために、“わかっているけど誰もやっていない仕事”に進んで取り組みます。

自分の夢を実現するために、自らの可能性を信じ、〇〇し続けます。

NTTグループの一員として

NTTグループは、「NTTグループCSR憲章」を基本として、社会的課題の解決を通じた持続的な成長の実現に努めています。同憲章は、グループのあり方を表現した「CSRメッセージ」と、具体的な重点取り組み項目を示した4つの「CSRテーマ」から構成されており、グループ一体となって取り組んでいます。

私たちも「NTTグループCSR憲章」に基づき、自らの事業活動に応じたCSR活動指針(次頁)を策定し、社会的課題の解決に取り組んでいます。

NTTグループCSR憲章



NTTグループCSR憲章 : https://www.ntt.co.jp/csr/groupcsr/csr_policy.html

社会に貢献する、私たちのCSR活動指針

NTTコムウェアのCSRは、「NTTグループCSR憲章」に即しつつ、自社の事業の特性を踏まえた行動を重視しています。なお、その尺度としてSDGsを重視しています。これからも、持続可能な社会に貢献する企業グループであり続けるため、社会の変化を見据えつつ、多面的なCSR活動をグループ一体で展開していきます。

CSRメッセージ

私たちNTTコムウェアグループは、高い倫理観と技術力を持って最高のサービスと信頼を提供し、お客さまとのビジネス価値の協創を通じて、事業活動を通じた社会的課題の解決に取り組み、人と社会と地球がつながる安心・安全で持続可能な社会の実現に貢献します。

CSRテーマ

関連する主なSDGs



人と社会のコミュニケーション

私たちは、社会の持続的発展のため、お客さまのデジタルトランスフォーメーションをサポートすることにより、現在生じている国内外のさまざまな社会的課題に加えて、今後の技術革新の結果もたらされる新たな社会的課題の解決にも取り組み、より豊かでスマートな社会の実現に貢献します。



人と地球のコミュニケーション

私たちは、NTTコムウェアグループ事業全体にわたって環境負荷を低減し、ICTの利活用による社会全体の環境負荷低減に取り組み、さまざまな地球規模での環境問題の解決に努めます。



安心・安全なコミュニケーション

私たちは、社会を支え生活を守る重要なICTソリューションを提供する企業グループとして、社会的・倫理的な課題の克服に真摯に取り組み、情報セキュリティの確保や災害・サイバー攻撃にも強い安心・安全なコミュニケーション環境を提供します。



チームNTTのコミュニケーション

私たちは、“チームNTT”として心身ともに健康で、さまざまなパートナーの皆さまとともに高い倫理観と人権意識を持って事業に取り組み、ダイバーシティを尊重した働きやすい職場環境の整備や個の成長に努めて、豊かな地域社会づくりに貢献します。





9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



社会の期待

SDG9は、人びとが将来にわたり、先進的で快適な生活を送ることができる社会を実現するために、イノベーション(技術革新)を社会全体で推進することを唱えています。とくにICT企業に対しては、社会やコミュニティに改善インパクトをもたらす先進技術の開発とその実用化を通じ、主体的に貢献することが期待されています。

産業と技術革新の 基盤をつくろう

01 コムウェアの見据える、価値創造

NTTコムウェアグループは、「協創型イノベーションで未来を創る」を合言葉に、お客さまとともにより快適で便利な社会の実現に貢献するソリューションの開発を続けてきました。現在はNTTグループのシナジーを発揮しつつ、IoTやAIを活用しビジネスや日常生活を革新する多彩なサービスの提案を進めています。

Action Highlight 01

オートリース業務を革新する、「業務代行AI」

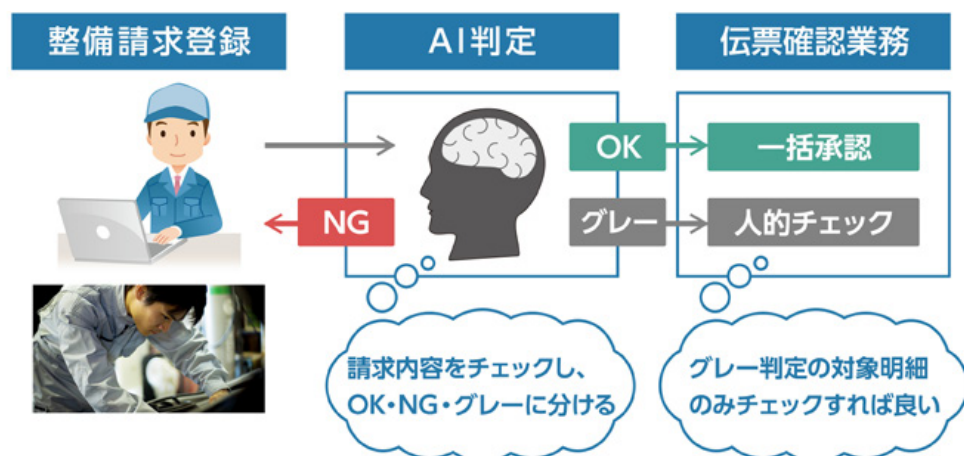
膨大な請求書、伝票をいかに効率的に手続きするか。幅広い業種での課題といえる同問題に対し、AIを活用して効率化と省人化を図る試みが始まっています。NTTコムウェアは日本カーソリューションズ株式会社(NCS)とともに、「AIを活用した請求伝票確認作業の自動化*」に取り組みました。

NCSでは、13,000を超える提携整備工場から年間100万件以上の請求伝票を受け取り、その処理を行っています。専門知識を持つ担当者が目視で行ってきた確認作業にルールベースAIを活用することで、生産性の向上はもちろん、精査すべき書面への注力が一層可能となりました。

この「業務代行AI」は、公益社団法人企業情報化協会主催の2019年度「IT賞」にオートリース業界で初めて選ばれるなど、さらなる活用ならびに他業種への展開が注目されています。

* 車両請求伝票確認の業務代行AIとして発明した技術は、2020年6月16日に日本カーソリューションズ株式会社と共同で特許取得しました。

請求伝票確認作業 業務代行AIの仕組み



提携整備工場数 ▶ 約**13,000** 請求伝票数 ▶ 年間**100**万件以上

Action Highlight 02

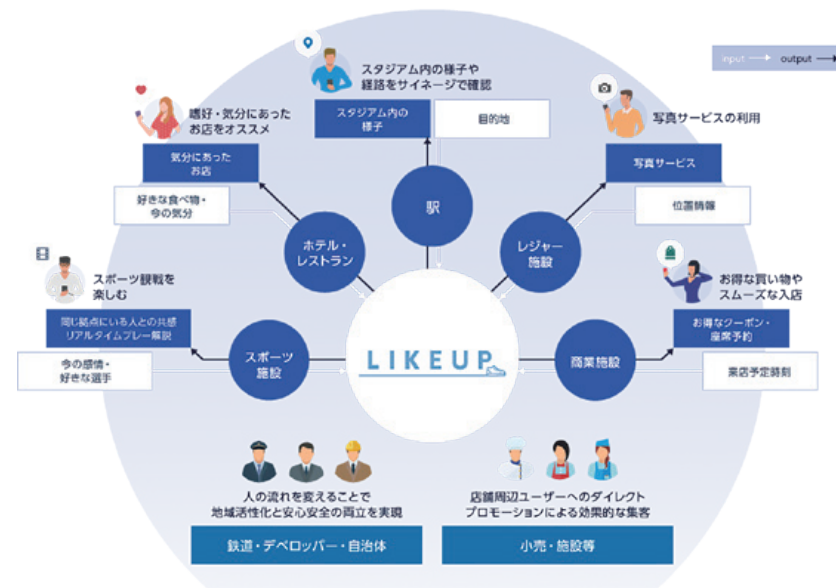
ユーザーの行動に寄り添った情報をリアルタイムに提供する、「LIKEUP」

NTTコムウェアは、ユーザーの属性・時間・位置や周辺状況等をもとにニーズや行動を予測し、ユーザーに寄り添った観光情報・交通情報等をリアルタイムに提供して行動を促し、混雑回避や個人最適な街歩き体験を実現する「LIKEUP」のサービスを2020年6月より開始しました。

「LIKEUP」は、独自開発のUXエンジンを用いたサービスであり、駅・施設等を中心としたエリアの回遊性を高め、混雑緩和および街の心地よい賑わいを実現することができます。実証実験でユーザーから高い評価を得た同サービスは、3月より京葉線沿線と「KEIYO TEAM6*」の情報を発信するアプリ「京葉線プラス」の「街ブラコンシェルジュ」サービスで、海浜幕張駅の混雑予測情報や周辺の観光・イベント・交通情報を提供するための仕組みとして、先行導入されています。

* JR京葉線と沿線の6つのスポーツチーム(千葉ジェッツふなばし、オービックシーガルズ、千葉ロッテマリーンズ、バルドラル浦安、千葉セリバ、ジェフユナイテッド市原・千葉)が連携して振興を図る取り組み。

LIKEUPサービスの未来構想





11 住み続けられる
まちづくりを



住み続けられる まちづくりを

社会の期待

SDG11は、人びとの安全で快適な生活を実現するため、サステナブルでレジリエント(強靱)な生活基盤インフラの社会全体での構築を重視しています。依然としてさまざまな社会課題が存在する中、その改善に貢献しうるイノベーションの開発さらにはサービス化に、社会の期待が高まり続けています。

コムウェアの見据える、価値創造

NTTコムウェアグループは、情報インフラを提供するNTTグループの一員として、SDG11に大きな責任を担っています。情報インフラの安定性・信頼性に並ぶ大きな課題が、AIやIoT技術を積極的に活用し社会インフラのレジリエンスの強化に寄与するソリューションの実現であると、私たちは考えています。

Action Highlight 03

さまざまな社会課題へと活躍の場を広げる、画像認識AI「Deeptector®」

NTTコムウェアでは安心・安全で豊かな社会を支える生産活動や社会インフラ維持のための「点検」「検査」に注目し、AIを使った社会課題解決を推進してきました。その中核を担うのが、「Deeptector®」です。

「Deeptector®」は、Deep Learningを利用した画像認識AIで、人の「目」を代替し、目視で実施していた業務を支援することが可能です。人間が行う点検・検査業務の品質維持、また労働環境の改善や労働力確保等の課題解決として、とくに「道路不具合点検」や「製品外観検査」においてビジネスを拡大してきました。その実績から社会課題に大いに貢献する技術・サービスであると評価され、公益社団法人企業情報化協会主催の2019年度「IT賞」*および特定非営利活動法人ASP・SaaS・IoTクラウド コンソーシアムが主催する第13回ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2019で【AI部門】準グランプリを受賞しました。

* 社会課題解決領域にてIT賞を受賞

さまざまな社会課題に可能性を広げる、Deeptector®



IT賞 授賞式の様子

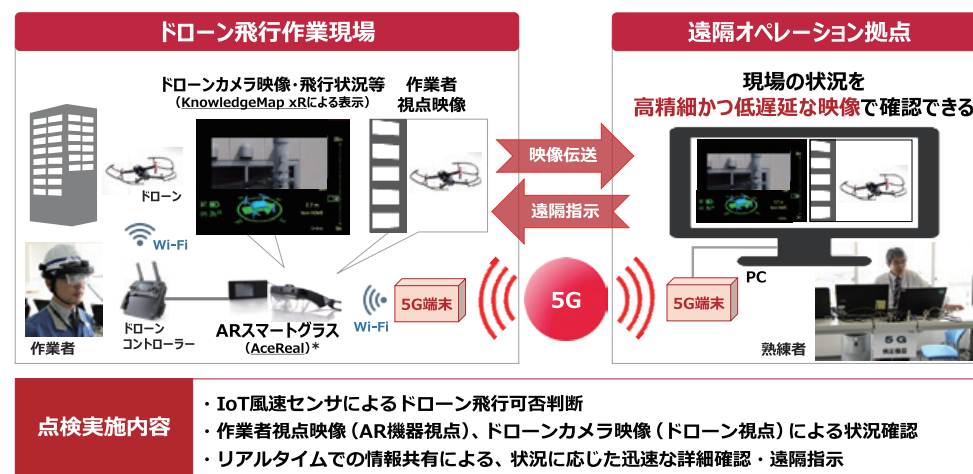
Action Highlight 04

5G・ドローン・ARスマートグラスを活用した遠隔ビル外壁点検

大容量・低遅延な次世代通信規格「5G」が国内でも運用開始したことを受け、NTTドコモは2019年末、これを活用するビジネス実証実験の一環として自社ビルにおいてドローン・ARスマートグラスを活用した遠隔ビル外壁点検を実施。NTTコムウェアもドローン情報取得・表示ソフトウェア「KnowledgeMap® xR」で同実験に参画しました。

ビルや鉄塔といった高層建築物での点検業務は社会インフラ維持の観点から重要性が高い一方で、その作業には危険が伴い省人化に期待が集まっています。今回、ビル点検会社、電子機器メーカー、ソフトウェア開発会社などが一堂に会し実証実験を行ったことで、より実践的な使い勝手の改善はもちろん、複数現場の並行対応やノウハウ継承の容易化といったさらなる生産性向上への改善が見込まれる結果となりました。

遠隔ビル外壁点検 実証実験のイメージ



* 「AceReal」は、サン電子株式会社によるARスマートグラス(メガネ型のウェアラブルコンピュータとAR(拡張現実)技術を搭載)を活用した遠隔支援ソリューションです。

13 気候変動に
具体的な対策を



社会の期待

地球温暖化問題は、人類共通の懸念事項ですが、現在なお有効な成果がもたらされていません。SDG13は、世界各地で続発する異常気象などを問題視し、いち早い行動を求めています。ICT企業は業務の特性上、大規模に電力消費を行う必要があり、事業および製品サービスの低炭素化努力へと、厳しい目が向けられています。

気候変動に 具体的な対策を

3 コムウェアの見据える、価値創造

NTTコムウェアグループは、ICTリーディングカンパニーとして、「Green by ICT」を合言葉に中期的な取り組みを展開してきました。中でも事業の低炭素化および気候変動対策は、ネットワーク・クラウド型ソリューションで社会に貢献する企業の責務としていち早く対策強化に着手。継続的に推進しています。

Action Highlight 05

低炭素性に優れたデータセンターの推進

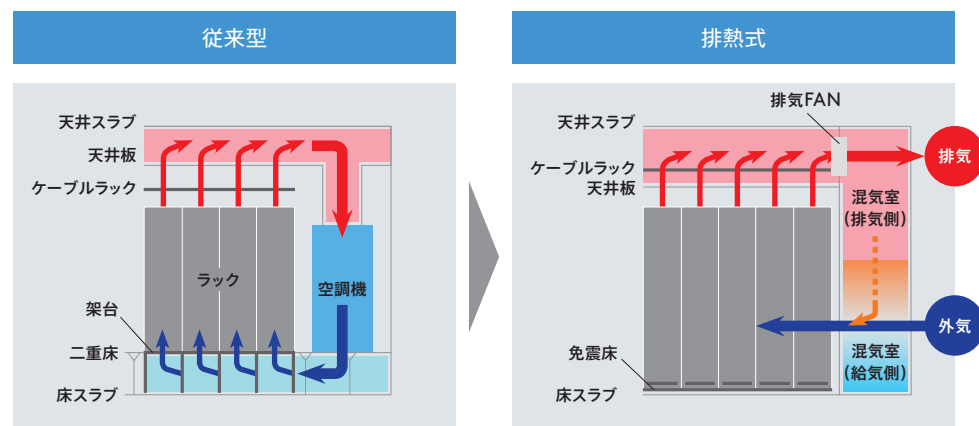
クラウド型サービスが社会に浸透した現在、データセンターの低炭素化は、ICT企業の環境戦略として、最も重要な課題のひとつです。

NTTコムウェアは従来より一貫して、データセンターの低炭素化を重視。サーバールームの気流制御や高度な空調管理、機器の省エネルギー化などを推進してきました。とくにSmartCloud®データセンター（排熱式）では、気流制御のみでサーバールームの温湿度を調整する、冷却装置をもたない完全外気空調方式採用により、空調消費電力を極限まで低減した省電力型クラウドデータセンターとして知見を蓄積しました（2012年当時、pPUE*1.1以下を実現）。その知見をハウジングデータセンターに展開し、温度環境の見える化と気流改善および空調制御自動化を進めることで、さらなるデータセンター全体の省エネと運用効率化に取り組んでいます。

* Partial Power Usage Effectiveness

$pPUE = (\text{データセンターフロアの消費電力量}) \div (\text{データセンターフロア内のICT機器消費電力量})$
データセンターフロアの電力利用効率を示す指標で、1に近づくほど効率が良い。

「排熱式」と「従来型」の主要設備の比較



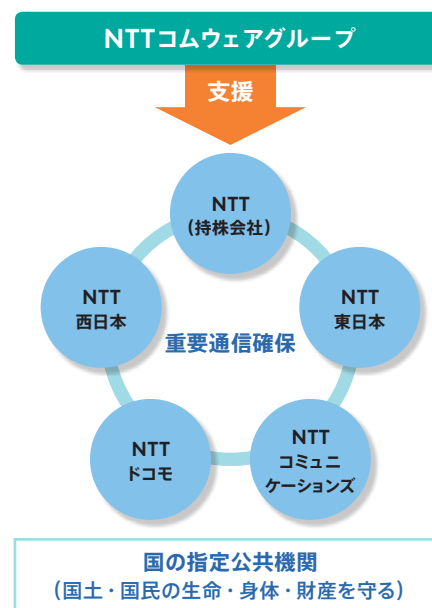
Action Highlight 06

天候リスクを踏まえた、早期サービス復旧への取り組み

地球温暖化と歩をあわせ、世界各地で豪雨や大型台風などの天候災害が頻発するようになりました。日本でも近年、ライフラインの寸断などの大きな被害がもたらされており、気候変動対策はビジネスリスクとして不可欠な要素となっています。

NTTコムウェアは通信ネットワークの早期サービス復旧に向けた技術的支援を担うとともに、サービス復旧の迅速性を高めるためのノウハウをNTTグループ内へ積極的に展開しています。具体的には、過去事例からの早期復旧策の提案・実施や、NTT各社へのリアルタイムな故障情報提供の実施により、2018年の西日本豪雨、2019年の台風15号19号と連続して発生した大規模な気象災害においても早期のサービス復旧に貢献し、社会インフラを支えるNTTグループ全体の使命に寄与しています。

災害復旧における NTTコムウェアグループの役割



気象災害発生時の実際の活動例





5 ジェンダー平等を
実現しよう



ジェンダー平等を 実現しよう

社会の期待

SDG5は、個人の属性によらず能力を活かす機会を提供されているジェンダー平等社会の実現をめざしています。一方で日本は、世界的に見ると十分な成果が出ていない状態です。政府は2019年に女性活躍推進法を改正。301人以上が働く企業に対しては、一層具体的なPDCAの実施と開示など率先した貢献を求めています。

コムウェアの見据える、価値創造

NTTコムウェアグループは、法令遵守はもちろんのこと、ともに働く人の安全と健康、多様性を尊重することを重視しています。中でも女性の活躍推進は注力してきた活動項目です。その実現のため、社内制度の整備に加え、社員の意識醸成などを計画的に実施。多様性が尊重された、活力ある社会の実現を推進しています。

Action Highlight 07

D&Iを推進する女性活躍推進ネットワーク(通称: WAVE)による活動

NTTコムウェアはかねてより2025年度女性管理者比率10.0%以上を掲げ、また改正女性活躍推進法の内容も踏まえつつ、その推進の一環として女性活躍推進ネットワーク「WAVE」*活動を実施しています。

WAVEのメンバーは各職場のリーダー層(課長職一步手前の女性社員)を中心に構成され、自ら周囲を巻き込みながら活動することで自己のキャリアアップの実現と同時に女性が生き生きと活躍できる職場環境づくりに貢献することを目的に活動を行っています。

2020年度は、社員の相互理解を主な目的とし、妊婦ジャケットを着て妊婦の気持ちを体験する「妊婦体験会」や育児休暇を取得した男性社員本人やパートナー、上司を集めた座談会を実施し、実施模様を社内イントラに発信するなど、積極的に活動を展開しました。

* Woman Action Variety Enjoy の略。女性の視点でさまざまなアイデアを出しつつ楽しく行動し、周囲を巻き込んで波を起こそうという想いを込めたネーミング

WAVEの仕組みと活動の様子



Action Highlight 08

気付きを促進する異業種交流会

日本企業は、欧米企業に比べ長期雇用の慣行が定着している点が特徴です。このような中、NTTグループ外の人たちとの交流が新たな気付きにつながるのではないかと考え、女性活躍推進ネットワーク(WAVE)活動の一環として、2019年度は異業種交流会を実施しました。自分と同じ立場で働く他社の女性社員と交流することで、視野を拡大し、成長のきっかけとすることを目的としています。交流会では事前に作成した自らのライフラインチャートによるキャリアの振り返りをもとに、入社からの個々のライフステージに応じた働き方やキャリア開発のあり方について参加者自身の経験をまじえて情報交換を実施。互いに新たな示唆を得る機会となりました。また、お互いの会社の強みを活かしたコラボレーションアイデアを提案・発表し、各社が協働できる可能性にも考察を行いました。

WAVE 異業種交流会



NTTコムウェアグループは、今回ご紹介した事例以外にも、多くの取り組みでSDGsへ貢献しています。



食事指導サービス Mealthyとの協業

SDG3: すべての人に健康と福祉を

株式会社Mealthyの食事指導サービスに、NTTコムウェアの画像認識AI「Deeptector®」が採用されています。食事写真をスマホアプリから送信すると、AIが食事内容を解析。提示された食事データをもとに、専門の栄養士がユーザーに合った食事指導を行います。AIの採用により、栄養士の作業効率が3倍に向上し、低コストで高品質な食事指導をより多くのユーザーに届けられるようになりました。



シンボル選手によるスポーツ教室

SDG4: 質の高い教育をみんなに

NTTコムウェアには、ビーチバレーボールとボッチャのシンボル社員が所属しています。シンボル社員たちは日常業務と併せ、首都圏の小学校を中心に、出張スポーツ教室を実施しています。

子どもたちに競技種目に親しんでもらい、さらには将来、選手への道に進むきっかけとなるため、2019年度はビーチバレーボール(品川区)とボッチャ(江東区、船橋市)で合計8回の出張教室を行い、延べ664人の小学生がトップアスリートとスポーツを体験しました。





クラウド型勤務管理サービス「follow®」の無償提供

SDG8: 働きがいも経済成長も

「follow®」は、「勤務管理、休暇管理、工数管理、旅費管理」といった一連の勤務管理業務機能をクラウドで提供するサービスです。インターネットに接続できる環境があれば、PC・スマートフォンなどから申請・承認ができ、新しい働き方の管理に適しています。

新型コロナウイルス感染症の拡大抑止とウィズコロナの働き方を模索する社会を支援するため、2020年6月～9月までに申し込みのお客さまを対象に最大6カ月の無償提供を行いました。

中堅～中小企業の皆様へ
Withコロナにおけるリモートワーク・時差出勤推進を無償支援
 6ヶ月目まで無償提供
 9月末までの申込み 1社につき500ID未満まで
※ご利用開始日当月から起算し、6か月目の末日までが無償期間となります




障がい理解セミナー

SDG10: 人や国の不平等をなくそう

ビジネス・スポーツを問わず、障がいのある方が、自分らしく活躍する上で、周囲の理解と協力は大きな力となります。NTTコムウェアは2019年11月、「2020年スポーツ全社応援イベント」を開催。その中で「障がい理解セミナー」および「パラスポーツ体験会」を実施しました。当日はパラアスリート2名をゲストに迎え、参加者は講演と体験会での交流を通じて障がいへの理解を深めました。



NTTクラリティ株式会社
 ブラインドマラソン 青木洋子選手



食物の無駄をなくすコムウェアポーク

SDG12: つくる責任 つかう責任

NTTコムウェアは、オフィス廃棄物分別の徹底や2008年度より実施している食品残渣リサイクルなどの取り組みを継続することで、2008年度から12年間連続して一般廃棄物のゼロエミッションを達成しています。

食品残渣リサイクルでは、NTTコムウェアグループにある食堂から出た食品残渣を配合飼料に加工し、その飼料を用いて育てた豚を「コムウェアポーク」とし、グループ社員食堂でメニュー提供しています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

心をつなぐ、社会をつなぐ





自社のCSR目標に関連させ主体的に貢献するもの、製品・サービスを通じてお客さまとともに貢献をめざすものなど、詳細な情報については、下記のサイトもご覧ください。



CSRサイト

4つのCSRテーマに即した、継続的な取り組みなど、NTTコムウェアグループのCSRに関する情報を紹介しています。



<https://www.nttcom.co.jp/csr/>



サービス紹介サイト

お客さまやエンドユーザーの皆さまとともに、より良い社会の実現をめざす、多彩な製品・サービス群を紹介しています。



<https://www.nttcom.co.jp/solution/>

* 人名、団体名、公共機関名などは原則として敬称を略しています。

* 「Deeppector」、「KnowledgeMap」、「SmartCloud (スマートクラウド)」、「follow」は、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。

* 「AceReal」は、サン電子株式会社の登録商標です。

* その他、記載されている社名、商品名などは各社の商標または登録商標である場合があります。

お問い合わせ窓口

NTTコムウェア株式会社

総務人事部 CSR推進室

〒108-8019 東京都港区港南1-9-1

NTT品川TWINSアネックスビル



<https://www.nttcom.co.jp/csr/>

2020年10月発行(次回発行2021年10月予定)



NTTコムウェア

